

薩摩焼の 伝統と魅力

鹿児島島の焼き物「薩摩焼」。その歴史は古く、今から約420年前、朝鮮出兵に参加した島津義弘が多くの陶工を連れ帰ったことが始まりとされています。薩摩に着いた陶工たちは各地に産地を形成し、さまざまな系統の窯場が誕生しました。

今もなお鹿児島には多くの窯元があり、平成14年には国の伝統的工芸品として指定されています。

今回は、長い歴史に育まれた伝統を守りつつ、新たな発展を続ける薩摩焼の魅力に迫ります。



薩摩焼の 種類



黒薩摩(黒もん)

鉄分の多い土を使用し、黒や褐色、茶色などの釉薬(ガラス質の薬品)をかけた陶器。素朴で剛健な趣の焼き物で、昔から庶民の器として親しまれています。

白薩摩(白もん)

表面に貫入といわれる細かいヒビが入っているのが特徴。色絵に金彩を加えた金欄手や透かし彫りといった華麗で繊細な陶器です。



現代の薩摩焼

現在、鹿児島県内では苗代川系・龍門司系・堅野系などの伝統的な流れを汲む窯元と、県内外の新しい技術・技法を修得して開いた窯元が存在しています。

多種多様な窯元が互いに刺激し合い、薩摩焼を次世代に残すための努力が重ねられており、伝統的な白薩摩・黒薩摩に加え、新しい技法や材料を用いた作品も増えてきています。

工程



1 成形

手で形を作る「手ひねり」、ろくろを回して形を作る「ろくろ成形」、石こう型や素焼型を使う「型おこし」などがあります。



2 仕上・乾燥

成形した表面をカンナで削り整え、模様付けや彫りなどを施します。



3 素焼・施釉(釉薬)

750℃～850℃で素焼し、釉薬を掛けるなどします。

4 本焼き

1200℃前後で12時間以上焼成します。



5 上絵付

白薩摩の場合は、さらに絵付けをして720℃～800℃で絵具を焼付けます。



完成品(窯出し)

窯から出し、底の形などを整えて仕上げます。

大作から日常使いの食器まで、大小の色鮮やかな作品が並ぶ工房。素地に色粘土をはめ込んだ美しい作品は、「誰も作ったことのない薩摩焼を作りたい」という思いから生まれました。「粘土自体に色が付いているので、長く使っても色あせないのが魅力の一つ。今後は色粘土で絵も描いてみたいです」と三反田さん。新しい作品に出会える日も近いのかもしれない。



こうぼうほうえん
工房豊炎
代表 三反田 豊さん
(県薩摩焼協同組合 副理事長)
鹿児島市谷山中央2-4138
☎099-266-3145



新しい薩摩焼を目指して
作品に宿る個性

受け継がれる伝統と 新たな感性

造形豊かな彫り模様が施された作品は、彫刻の技が反映された荒木さんならではのもの。父 幹二郎さんが手掛ける深緑色の釉薬ゆうやくを使った作品に並び、窯元を代表する作品です。「大学で造形の最前線を体感したことや、陶芸を愛する父から伝統工芸の底力を学べたことが作品づくりに生きています。美の根源『自然』を形にしたい」と語る荒木さんは、薩摩焼発展に向けた挑戦を続けています。



あらかとうよう
荒木陶窯
十五代 荒木 秀樹さん
(県薩摩焼協同組合 理事長)
日置市東市来町美山1517
☎099-274-2733

「自然」を形に
伝統と独自の技が光る作品づくり



伝統をより深めつつ、
時代に挑んだ作品を展開

伝統的な薩摩焼を幅広く製作するのは、沈壽官さんと総勢28名の職人の方々。繊細な透かし彫りや絵付が施された作品は、多くの人を魅了しています。

材料に自らが掘り出した鹿児島の土を使用するなど、作品づくりにこだわってきた沈さん。「伝統を深めながら、時代に受け入れられる作品を生み出したい。それは地域を掘り下げてこそできると思います」と話し、薩摩焼の未来を見つめていました。



ちんじゅ かんがま
沈壽官窯
十五代 沈 壽官さん
日置市東市来町美山1715
☎099-274-2358

約420年の歴史を誇る薩摩焼。その伝統を守る一方で、現代を生きる名工たちによって個性溢れる作品が生み出されています。日々作陶に励む名工たちとその作品について紹介します。



日常生活に溶け込む
使い心地の良さを
追求した作品

「重さや大きさ、カップの取っ手に至るまで、使いやすさにこだわっています」と話す下拂さんは、多くの方の食卓に薩摩焼を届けようと、お客さんの意見を反映させた日常使いの器を作っています。

特に人気なのは、窯を開いた当時から続く『メダカメダカの器シリーズ』。その他にも大島紬とコラボした器など、ギャラリーには多彩な作品が並んでいます。



しこうがま
志光窯
代表 下拂 豊志さん
(県薩摩焼協同組合 副理事長)
鹿児島市吉野町555-4
☎099-244-5561



※昨年度開催の様子

薩摩焼フェスタは県内の窯元が一堂に会する年1回のイベント。より多くの方に薩摩焼の良さを知ってもらい、身近に感じてもらうために開催されます。子供から大人まで楽しめる催し物も盛りだくさんで、毎年多くの方が訪れています。

昨年は「焼酎を楽しむ薩摩焼の器」をテーマにした薩摩焼が多数展示されました



❖ イベント内容 ❖

- ❖ 販売・展示 窯元ごとのギャラリーなどで薩摩焼を購入できます。今年は「西郷どんの器」をテーマにした作品も多く展示される予定です。
- ❖ 喫茶店 窯元カップでティータイムを楽しめます。
- ❖ 体験 子供陶芸体験が行われます。
- ❖ ふるさとPRコーナー ❖ お楽しみ抽選会ほか

※変更になる場合もありますのでご了承ください。

第29回 薩摩焼フェスタ

11月28日(水) ~ 12月2日(日)

時間 10:00~18:00 初日、開会式9:30~ 最終日のみ17:00まで

会場 かがしま県民交流センター

明治維新150周年記念
黎明館企画特別展

華麗なる薩摩焼

—万国博覧会の時代のきらめき—

2018
12.25 [火] — 2019
2.24 [日]

【会場】
県歴史資料センター黎明館
2階 第2・3特別展示室

【開館時間】
9:00~18:00 (入館は17:30まで)

【休館日】
1/1(火)・2(水)・7(月)・15(火)・21(月)・25(金)・28(月)
2/4(月)・12(火)・18(月)

【観覧料】※()内は前売券、団体20名以上の料金
■ 一般:1,000円(800円)
■ 高・大生:600円(480円)
■ 中学生以下:無料

【前売券販売所】10月21日から前売券発売
黎明館/山形屋/マルヤガーデンズ/生協コープ各店/ア
ミュプラザ鹿児島/鹿児島県職員生活協同組合/ファミ
リーマート(イープラス)/高木画荘/大谷画材/集景堂

【主催】
明治維新150周年記念 黎明館企画特別展
「華麗なる薩摩焼」実行委員会
(県歴史資料センター黎明館/南日本新聞社/MBC南日本放送)

【後援】鹿児島県教育委員会/鹿児島市教育委員会/NHK鹿児島放
送局/KTS鹿児島テレビ/KKB鹿児島放送/KYT鹿児島読売テレビ

【協力】日本航空

※関連イベントとして、国際シンポジウムや講演会、
ワークショップを実施します。詳しくは黎明館
ホームページをご覧ください。



錦手茶壺形蓋付壺

明治29(1896)年 十二代沈壽官 ロシア・エルミタージュ美術館蔵

ロシアのロマノフ王朝最後の皇帝、ニコライ2世の戴冠冠に合わせ
て、島津忠義が贈った薩摩焼。十二代沈壽官の作で、肩にはロマノフ家
の王冠にニコライの頭文字を組み合わせた紋章が描かれています。

Photo©TheStateHermitageMuseum, St.Petersburg,2018/Alexander Koksharov

問い合わせ先 県庁かごしまPR課:099-286-3050 県歴史資料センター黎明館:099-222-5100

薩摩焼と世界

世界的人気を実現させた薩摩焼の華麗なる「変容」

1598
慶長3年



山崎信一撮影

朝鮮陶工がもたらした技術革新

文禄・慶長の役(1592-98)に出陣した島津軍が連れ
帰った朝鮮陶工によって誕生した薩摩焼。海外の先進
技術を移入して始まるその歴史は、革新的で国際性に
溢れています。彼らの手による茶陶は、関ヶ原の戦いの
後、早くも徳川幕府や茶人から評価を受けました。

肩衝茶入 17世紀前期 沈家伝世品収蔵庫蔵

1610~
1620年代
江戸初期



白薩摩の誕生と展開

1610~20年代頃、領内で白色陶器の原料が発見され
ます。貴重な白土を用いた白薩摩は藩の御用品となり、
白薩摩の素地に鉄絵や色鮮やかな上絵付けを施す
など、豊かな装飾品へと発展しました。

白薩摩鼎形香炉 18世紀 個人蔵

1850~
1860年代
幕末



山崎信一撮影

近代化の中で海外輸出を模索

幕末、薩摩藩が他藩に先駆けて行った近代化事業の
中で、絵の具やデザインの改良などが試みられます。
薩摩焼を輸出品に育てようとした島津斉彬のこの
取り組みは後に実を結び、万国博覧会という国際
舞台で薩摩焼は高い評価を得ることとなります。

色絵金彩花鳥文大花瓶 19世紀後半 個人蔵

薩摩焼の世界デビュー

世界の舞台へ

明治維新前年のパリ万博で、色鮮やかな薩摩焼が
大きな注目を集めました。薩摩藩の手で国際的な
舞台に立った「薩摩錦手」により、海外輸出の端緒が
開かれました。



©Victoria and Albert Museum, London

錦手藤文象耳花瓶(右)/錦手瓢文象耳花瓶(左) 1867年パリ万博出品作
イギリス・ヴィクトリア&アルバート博物館蔵

1873
明治6年



Photo: ©MAK/Georg Mayer

定まった国際評価

明治政府が国の威信をかけて臨んだウィーン万博
で、薩摩焼が好評を博し、国際的評価が定まりました。
海外では「SATSUMA」と称されるようになりました。

色絵金彩草花図花瓶 一对 1873年ウィーン万博出品作
オーストリア・ウィーン応用美術館蔵

1876
明治9年



©Victoria and Albert Museum, London

人気はアメリカ大陸へ

1876年のフィラデルフィア万博を機に、薩摩焼の
人気はアメリカ大陸へと波及します。こうして世界を
股にかけた「大輸出時代」が創出されていきました。

色絵金彩獅子乗三足香炉 1876年フィラデルフィア万博出品作
イギリス・ヴィクトリア&アルバート博物館蔵

世界の

「華麗なる薩摩焼」

鹿児島へ

明治維新150周年を記念した企画特別展「華麗
なる薩摩焼—万国博覧会の時代のきらめき—」が、
県歴史資料センター黎明館で開催されます。特別展
には、国内外の著名な美術館が所蔵する薩摩焼の
逸品約250点が集結。イギリスやアメリカなど

海外4カ国から約50点が出品され、そのほとんどが
国内初展示となります。これまで門外不出とされて
いた、ロシアのエルミタージュ美術館が所蔵する
ロシア皇帝の薩摩焼が約120年ぶりに里帰りする
など、見逃せない機会となりそうです。